The background of the slide is a light gray gradient with several realistic water droplets of various sizes scattered across it. The droplets have highlights and shadows, giving them a three-dimensional appearance.

八戸学院大学短期大学部三岳研究室
「わくわく☆はちたん遊びのワ」
活動報告

「はじめに」 なぜ、私たちはこの活動が必要だと考えたのか？～「2つのきっかけ(根拠・動機)」～

- 課題①～市民の視点から～

毎年6月に市庁、中心街で行われていた「家族ふれあいウォークラリー大会(まちなかハイキング)」(主催:よこまちストア、八戸市レクリエーション協会、協賛:大塚製薬株式会社)が2017年に中止となった。

→「子供と一緒に『家族』が中心街に足を運ぶイベントが減った」。

- 課題②～私達(学生)の視点から～

八戸学院大学短期大学部ライフデザイン学科ではレクリエーション・インストラクター、福祉レクリエーション・ワーカーの資格取得ができる。

→しかし、在学中は資格を活かした活動の場が少ない。

「はじめに」 なぜ 私たち の 街 が 必要
だと 考へ ら れ た の か

この問題ってそれぞれの立場で何か
つながっていないか!?

→レクリエーション事業を通じた
「街づくり」、「街おこし」に取り
組むスキルがあるのに実際に
自分が住んでいる街でスキル
を活かす場所がない。

• 課題①

年

•

リ

→

キン

エ

ター、福祉レク

「この街」でどのような活動を展開したいのか
～ 目的・使命(MISSION)～

- ① 子供達への遊び場の提供を増やしたい。
- ② 街の活性化に貢献したい。
- ③ 活動を通して地域の人々と交流の機会を作りたい。
- ④ 自分達の資格を活かす場を広げたい。

では、どのようなプランを立てたのか？

～事業計画①～

- 八戸市内在住の児童(幼児～小学生を想定)を対象に、8月から12月にかけて、月に1回程度中心街や児童館等でレクリエーションの遊具を使った遊び場コーナーを開催したい。
→学生7人のメンバーで申請した。毎月のイベント実施が可能な「根拠」として、学生7人のメンバーでそれぞれの業務を分担した場合、「月1回位のペースのイベント開催」でも問題ないと考えられた。

では、どの様なプランを立てたのか？

～事業計画②～

- 短大保有のレクリエーション遊具を借用。
授業でゲーム進行等も理解したので円滑に事業を行う事ができる。
→実現可能な内容での運営、つまり**コストパフォーマンス**を意識した取り組み。



- これら動機や事業計画を検討した上で、展開するイベント名を

「わくわく☆はちたん遊びのワ」と命名。

この街で活動したらどんな事が出来るのだろうか？

～事業実施により期待される効果～

- 子供達の居住地や街中に遊べる「場」を提供できる。
- 無人の公園と違い学生が見守って行うので子供達の安全性に配慮を払う事ができる。
→万が一の為の各イベントの傷害保険も加入した上でイベント実行。
- 例えば小学校高学年と低学年で混ざって遊ぶといった「異年齢集団」で共に遊ぶ機会が少子化に伴って減少しているが、事業を通して異年齢間の交流機会を作る事ができる。
- 既存イベントに合わせてレクリエーション事業を開催する事で参加者の増加、活性化が期待できる。

活動計画、並びに実績報告

イベント開催日	幼児 (～6歳)	小学生 (6～12歳)	成人	計
8/27(日)はちのへホコテン！	74人	65人		139人
9/24(日)はちのへホコテン！	120人	131人		251人
10/28(土)八戸学院キャンパス	24人	33人	13人	70人
11/25(土)八戸市江陽児童館		30人		30人

活動計画、並びに実績報告

イベント開催日	幼児 (3歳)	小学生 (6歳)	成人	計
8/27(日)はちのへ				139人
9/24(日)				251人
10/28(土)ハ				70人
11/25(日)				30人

合計**490人**の
市民の方々が
参加してくれました！

ありがとうございました！<(_ _)>

活動報告

- 7月～ 「手作り」で遊具を作るぞ！
- 8/27(日)はちのへホコテン！
- 9/24(日)はちのへホコテン！
- 10/28(土)八戸学院キャンパス
- 11/25(土)江陽児童館

広報、周知方法

- 1. チラシ
- 2. ラジオ
- 3. インターネット
- 4. 江陽児童館だより

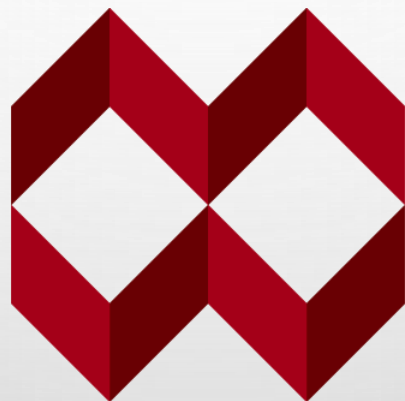
振り返り(総括) 自己点検

- 1. イベントの計画内容について
天候や屋外、屋内と会場によって制約があった。又、児童だけでなく成人の参加もあった。
→逆に色々工夫、アレンジを考えたのでそれも学びや発見だったと思う。
- 2. イベント当日の運営、進行について
「児童」といっても未就学児と小学生でも違い、関わり方、指導法をより習得する必要性を感じた。
- 3. 「コストダウン～結果的に効率性を踏まえた企画運営～」
様々な場面で工夫している中で「交通費」や「郵送費」等、主に4項目の**コストダウン**が出来た。
- 4. メンバーの参加について
どこにでも起きる問題と思うが、メンバー間での業務分担のアンバランスがあった。
→一方で、当初申請メンバー以外の学生の参加があり、「**活動の輪**」が広がった。

振り返り(総括) 成果・波及効果

- 1. 「子供が遊べる場所の拡がり」
子供達にとって中心街や大学という場所を「非日常の遊び場」という空間に創る事が出来た。
- 2. 「地域のにぎわいへの貢献」
はちのへホコテン！に参加し、子供連れ家族を中心とした来場者の中心街での滞留につながっており、中心街活性化への取り組みに関わられた。
- 3. 「地域福祉とのつながり」
 - ①地域福祉に取り組む団体ともつながった。
 - ②「八戸地区保護司会」が我々の活動に興味を持ち、11/25(土)江陽児童館の活動を見学に来た。
- 4. 「学生まちづくり助成金の他の採択事業とのコラボレーション」
11/25(土)江陽児童館の際に、他の採択事業の活動も1コーナーで開催。

ご清聴ありがとうございました



HACHINOHE GAKUIN
JUNIOR COLLEGE